

日付：令和8年5月19日(火)	記録者：北部地域障がい者相談支援センター
会議名：令和8年度第1回地域生活支援拠点等部会報告	
場所：唐津市健康サポートセンターさんて 3階大会議室	
時間：14:00～15:15	参加者数：27
参加関係機関 参加者名簿参照	
<p>内容</p> <p>1. 開会・部会長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度部会長の確認：からつ学園(井上氏)、副部会長：玄海町社協(松尾氏) ※令和7年度に引き続き ・今年度開催予定：年4回を予定。 ○今年度の方向性：部会長より ・昨年度(1年目)は「緊急時の対応」をメインテーマとし、皆様の尽力により北部地域における緊急受け入れ体制は概ね整ってきた。 ・今年度は、拠点の5つの機能のうち「体験の機会・場」の機能に着目し、緊急事態に至る前の体験の機会や事前の備えに焦点を当てる。 ・背景(法改正・制度の動き)：今年度から障害者支援施設において「地域移行等の意向確認」が義務化された。施設ごとに担当者を決め、入所者全員に意向確認を行い、サービス管理責任者が個別支援計画に位置づけて支援につなげる動きが始まっている。施設の義務化、意思決定支援、地域生活支援拠点の整備、地域移行支援は、障害福祉の大きな流れとして重なり合っている。 <p>2. 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回幹事会(4月28日開催)の報告 ・新規加入・退会事業所の紹介 <新規加入> 君色ベースがじゅまる <退会> 放課後等デイサービスニコニコ <p>3. 協議：グループワーク</p> <p>①前年度のテーマ「ワンアクション」の報告</p> <p>②体験の機会・場の機能について</p> <p>【事例：Dさんのケース(施設入所からの地域移行)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本情報：60代男性、療育手帳B、障害支援区分4。ADL自立、読み書き困難。施設入所中。 ・特性：明るく人と話すのが大好き。反面、熱中すると一方的な話が止まらなくなる。手先は不器用。 ・生活歴・地域生活実績：小学校から児童入所施設、18歳で障害者支援施設へ。その後退所し、24年間一般就労。地元に戻りグループホームで過ごし、日中は水産業や就労B型を利用。地域生活の誇りがあり、社会参加が生きがい。 ・地域生活困難の要因：他者のもの持ち出し、備品破損、利用者間トラブル、声かけ事案による警察介入等があり、GH退去・施設へ再入所となった。 ・現状：再入所から10数年が経過。現在は非常に落ち着いており、行事にも積極的。生活リズムも安定。 ・意思表明の契機(Xデー)：地域連携推進会議に利用者代表として出席した際、最後に「他の施設が見てみたい、働きたい」と表明。 ・課題と懸念： <ul style="list-style-type: none"> ○本人：もう一度地域で働く喜びを感じたい。 ○地域・現場側：過去のトラブル(性的トラブル等)への懸念、60代という高齢化による健康リスク。 ○※制度上の壁：65歳を過ぎると施設への再入所・逆戻りが非常に困難になるリスク。 <p>【グループワーク発表内容】</p> <p>「送り出す側(A・Cグループ)」と「受け入れる側(B・Dグループ)」に分かれ、障壁と取り組みについて議論。→別紙参照</p> <p>4. 総括・閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会長まとめ ○加算や報酬の仕組み(送り出す側・受け入れる側、地域移行支援の動向など)については、まだ支援者側も詳しく把握しきれていない現状がある。どちらの側にも大きな負担や不安があることを再確認した。 ○法改正により施設側の意向確認は義務化されたが、現実的には一足飛びにグループホーム等へ移行するのは非常に難しい。施設に留まることも一つの意向である。 ○今回のような事例(頑張れば地域移行に挑戦できる数名の方)のために、障害福祉が向かっている方向性を地域全体で共通認識として持つことが重要。始まったばかりの制度であるため、何かの折には地域の協力をいただきたい。 ○今後は、不明確な点が多い「加算の件」なども含めて、さらにテーマを深掘りしていきたい。 	